

人権の明日をひらく



令和4年度 人権ポスター 武藤芽翠^{めい}さんの作品

7月は「人権・同和問題啓発強調月間」です。/子どもの権利

どんなことに悩んでいるんだろう【性の多様性】

DV&モラハラ

どんなことに悩んでいるんだろう【性の多様性】

行橋市では、この冊子「人権の明日をひらく」を年2回発行し、人権に関する情報をお知らせしています。

昨年は、LGBTQ について基礎的な情報や行政の取り組みについて特集いたしました。今回は、性の多様性を理解するため性的マイノリティの人の悩みや困りごとのほか、多様性を認めあう共生社会の実現に向けて出来ることなどについて掲載します。

LGBTQ をはじめとする性的マイノリティの方々の悩みや困りごとを知ること、今まで当然と考えられてきた認識や習慣を見直し、多様性について考えるきっかけとなることを願っています。

まずは知ることからはじめてみましょう。



—当事者の方の悩みや困りごとを知る—



「自分の周りには性的マイノリティの人はいないんじゃないかな。」

そうでしょうか!?

差別や偏見が怖くて、自分を隠し続けている人はいます。このような方は、具体的にどのような悩みや困りごとがあるのでしょうか。

日本では、人口の8%程度（およそ12人に1人）がLGBTQ等性的少数者（性的マイノリティ）であるとされています。（※出典：電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT 調査2018」）

家庭や地域での悩み

- 地域や近所の人々の理解を得られるか心配
- 安心できる自分の居場所が見つからない
- LGBTQ への偏見から住居を借りにくい

就職における悩み

- 性別の不一致による採用時の不安
- 履歴書などに、性別の記載や写真の添付を求められ就職活動が難しくなる
- 男女別の制服

職場での悩み

- 更衣室やトイレの「男・女」での使い方
 - 採用後の職場でのいじめなど
 - 性の多様性や LGBTQ に対する理解不足のため、カミングアウトできない
 - 昇進差別などのハラスメントを受けることがある
- うつや引きこもり、最終的には離職を選択するケースがある

多様性に対応する取組の一環として、「選べる制服」制を導入する学校が増えており、行橋市においても対応を進めています。

学校生活での悩み

- 「男らしくしなさい」「女らしくしなさい」と言われる
 - 男女別の空間（トイレ、更衣室・・・）や持ち物の色（制服、水着、髪型、ランドセル）などに違和感を覚える
 - 髪型、服装などを通して自分を表現できず、性自認を尊重してもらえない
 - 宿泊を伴う学校行事に参加し難い
 - 「彼氏(彼女)できた？」と聞かれ、返事に困る
 - LGBTQ であることを気づかれないように振る舞うことが、ストレス
 - 家庭や学校で孤立しやすい
- その結果、自分探し、仲間探しが困難になる

同性カップルが抱える困難

- 同性同士の結婚が認められず社会保障制度や福利厚生制度が利用できない
- 同性パートナーが所得税の配偶者控除を受けられない
- 生命保険で、同性パートナーを死亡生命保険の受取人にできない場合がある
- 死別した同性パートナーの財産を相続できない
- 法的に夫婦として認められないため、同性パートナーの命にかかわるケガや病気の治療の同意者になれなかったり、ICU に入っているパートナーに面会できないことがある

災害時に直面する困難

- 避難所で、生活場所を確保できない
- 同性パートナーの安否確認をしようとしても「家族」として扱われない
- 特にトランスジェンダー当事者が下着や生理用品などの男女別の物資を受け取りづらい
- 特にトランスジェンダー当事者が、トイレ・更衣室・入浴施設などを安心して利用できない
- 性ホルモンや抗 HIV 薬などの治療中の医薬品を受け取る際にプライバシーが確保されない

このように、性的マイノリティの人は、数えきれないほど、さまざまな困難と差別的な扱いに直面しています。

私たちが出来ることは？



- 性の多様性を知り、たとえすぐに理解できなくても、自分の価値観や固定観念を他者に押し付けず、まず否定しない。
- 学校や職場において、性自認や性的指向、ジェンダー表現(性表現)を理由に、蔑称べっしょうを用いる言葉を言ったり、いじめたり、笑いのネタにしない。
- 性自認や性的指向、ジェンダー表現を人事の評価にしない。
- 自分の周りに性的マイノリティの人がいるかもしれないと思って行動する。

などなど、私たち一人ひとりにできることはまだ多くあります。そして私たち一人ひとりの行動が社会をよりよく変えるきっかけにつながるのではないのでしょうか。

7月は「人権・同和問題啓発強調月間」です。

福岡県では、1981（昭和56）年から県独自の取り組みとして、毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定め、街頭啓発や講演会など市町村と一体となって啓発をおこなっています。

行橋市では、今年度『人権・同和問題啓発強調月間』として、7月22日（土）に記念講演会（映画上映）を開催します。（裏表紙参照）

「同和問題」とは

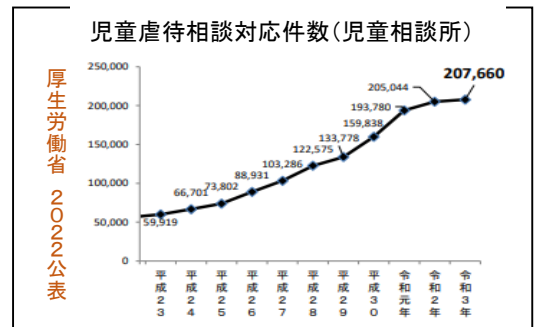
根強く残る「**部落差別**」の問題で、中世（室町時代ころ）以来の身分階層を近世（江戸時代）において政治的に確立させ、近代明治以降も温存された差別です。今も日本国民の一部の人々が、生まれた場所、住んでいる場所など自らの責任でない理由により、日常生活で不利な生活を強いられている**わが国固有の人権問題**です。

同和問題への取り組みは、他の人権課題へと広がっていきました。障がい者のこと、日本にいる外国人のこと、ハンセン病元患者の人たちのこと、高齢者のこと、社会の中での女性に対すること等多くの課題の中から、今回は「**子どもの人権に関すること**」に焦点を当てていきます。

子どもたちひとりひとりが大切にされる社会を目指して…子どもは社会の宝

少子化が進み、子どもの総数は減少している日本ですが、児童虐待の事例やいじめ、自殺、不登校の深刻化など子どもたちが生きづらい世の中になっているとも言えます。今こそ具体的に、子どもの権利とは何かを改めて明らかにして、子どもたちを守ることに国をあげて、取り組むときです。

こんな中、2023（令和5）年4月1日に「**こども基本法**」が施行され、同時に「**こども家庭庁**」が発足しました。



【こども家庭庁】…2023年4月発足

子どもの最善の利益を第一として、子どもの視点に立った当事者目線の政策を強力に進めていくことを目指した政府の機関です。

こども基本法（令和5年4月1日～施行）（抜粋）…二十条まであります。

（目的）

第一条 この法律は、日本国憲法及び（※）児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、社会全体としてこども施策に取り組むことができるよう、こども施策に関し、基本理念を定め、国の責任等を明らかにし、及び子ども施策の基本となる事項を定めるとともに、こども政策推進会議を設置すること等により、こども施策を総合的に推進することを目的とする。

（以下省略）

（※）児童の権利に関する条約→子どもの権利条約・・・1989年に国連で採択され、日本は1994年批准。

子どもの権利条約とは

子どもはたくさんの権利を持っています。それは責任や義務を果たしてから与えられるものでなく、生まれながらにしてすべての子どもにあるものです。「遊ぶこと」「休むこと」は子どもが育つためにとっても大切です。大人が子どもを見守りながら、子どもの権利をあたりまえのものとして保障する義務や責任があります。

重要な4つの柱

生きる権利

病気などで命をうばわれないように、病気やけがをしたら治療を受けられることなど。

育つ権利

教育を受け、休んだり遊んだりできること。考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができること。

守られる権利

あらゆる種類の虐待や搾取などから守られること。
障がいのある子どもや少数民族の子どもなどは特に守られること。

参加する権利

自由に意見をあらわしたり、集まってグループをつくったり、自由な活動をおこなったりできることなど。

私たち大人は、子どもにどう接したらいいのでしょうか。

- ①子どもの気持ちや考えに耳を傾けましょう。
気持ちが落ち着き、大事にされていると感じます。
- ②良いこと、出来ていることを具体的にほめましょう。
がんばりを誉めることで自尊心が高まります。
- ③子どもの状況に応じて、身の回りの環境を整えましょう。
叱らないですむ環境づくりが工夫できます。
- ④「いう事を聞かない」にも、色々あります。
気を引きたい、体調が悪い、何を言われているか理解できない 等の理由のときもあります。
- ⑤否定文ではなく肯定文で語りかけましょう。
「走ってはダメ」より「歩きましょう」がいいでしょう。
- ⑥イライラした時はクールダウンしましょう。
自分の心の状態を意識するのは大切です。
- ⑦親自身がSOSを出しましょう。
ひとりで悩まず、身近な人や子育て相談窓口等を利用しましょう。

子どもは愛されるのがいちばん
大人の笑顔で子どもは幸せになる
やさしい言葉をかければ
やさしいまなざしがかえってくる
あたたかい心で接すれば
あたたかい感覚が生まれてくる
忘れちゃいけない
大人には子どもの幸せを願い
育てること
そう あたりまえのこと



虐待かと思ったらすぐ
お電話ください。
いちはやく

189

- 行橋市子ども支援課子ども相談係
0930-25-1111 内線 1187
- 児童・生徒相談センター
0930-25-0119
- 京築児童相談所
0979-84-0407
- お子さんが通っている学校関係者

- 子どもの110番
0120-007-110

どんなことに悩んでいるんだろう【性の多様性】

行橋市では、この冊子「人権の明日をひらく」を年2回発行し、人権に関する情報をお知らせしています。

昨年は、LGBTQ について基礎的な情報や行政の取り組みについて特集いたしました。今回は、性の多様性を理解するため性的マイノリティの人の悩みや困りごとのほか、多様性を認めあう共生社会の実現に向けて出来ることなどについて掲載します。

LGBTQ をはじめとする性的マイノリティの方々の悩みや困りごとを知ること、今まで当然と考えられてきた認識や習慣を見直し、多様性について考えるきっかけとなることを願っています。

まずは知ることからはじめてみましょう。



—当事者の方の悩みや困りごとを知る—



「自分の周りには性的マイノリティの人はいないんじゃないかな。」

そうでしょうか!?

差別や偏見が怖くて、自分を隠し続けている人はいます。このような方は、具体的にどのような悩みや困りごとがあるのでしょうか。

日本では、人口の8%程度（およそ12人に1人）がLGBTQ等性的少数者（性的マイノリティ）であるとされています。（※出典：電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT 調査2018」）

家庭や地域での悩み

- 地域や近所の人々の理解を得られるか心配
- 安心できる自分の居場所が見つからない
- LGBTQ への偏見から住居を借りにくい

就職における悩み

- 性別の不一致による採用時の不安
- 履歴書などに、性別の記載や写真の添付を求められ就職活動が難しくなる
- 男女別の制服

職場での悩み

- 更衣室やトイレの「男・女」での使い方
 - 採用後の職場でのいじめなど
 - 性の多様性や LGBTQ に対する理解不足のため、カミングアウトできない
 - 昇進差別などのハラスメントを受けることがある
- うつや引きこもり、最終的には離職を選択するケースがある

多様性に対応する取組の一環として、「選べる制服」制を導入する学校が増えており、行橋市においても対応を進めています。

学校生活での悩み

- 「男らしくしなさい」「女らしくしなさい」と言われる
 - 男女別の空間（トイレ、更衣室・・・）や持ち物の色（制服、水着、髪型、ランドセル）などに違和感を覚える
 - 髪型、服装などを通して自分を表現できず、性自認を尊重してもらえない
 - 宿泊を伴う学校行事に参加し難い
 - 「彼氏(彼女)できた？」と聞かれ、返事に困る
 - LGBTQ であることを気づかれないように振る舞うことが、ストレス
 - 家庭や学校で孤立しやすい
- その結果、自分探し、仲間探しが困難になる

同性カップルが抱える困難

- 同性同士の結婚が認められず社会保障制度や福利厚生制度が利用できない
- 同性パートナーが所得税の配偶者控除を受けられない
- 生命保険で、同性パートナーを死亡生命保険の受取人にできない場合がある
- 死別した同性パートナーの財産を相続できない
- 法的に夫婦として認められないため、同性パートナーの命にかかわるケガや病気の治療の同意者になれなかったり、ICU に入っているパートナーに面会できないことがある

災害時に直面する困難

- 避難所で、生活場所を確保できない
- 同性パートナーの安否確認をしようとしても「家族」として扱われない
- 特にトランスジェンダー当事者が下着や生理用品などの男女別の物資を受け取りづらい
- 特にトランスジェンダー当事者が、トイレ・更衣室・入浴施設などを安心して利用できない
- 性ホルモンや抗 HIV 薬などの治療中の医薬品を受け取る際にプライバシーが確保されない

このように、性的マイノリティの人は、数えきれないほど、さまざまな困難と差別的な扱いに直面しています。

私たちが出来ることは？



- 性の多様性を知り、たとえすぐに理解できなくても、自分の価値観や固定観念を他者に押し付けず、まず否定しない。
- 学校や職場において、性自認や性的指向、ジェンダー表現(性表現)を理由に、蔑称べっしょうを用いる言葉を言ったり、いじめたり、笑いのネタにしない。
- 性自認や性的指向、ジェンダー表現を人事の評価にしない。
- 自分の周りに性的マイノリティの人がいるかもしれないと思って行動する。

などなど、私たち一人ひとりにできることはまだ多くあります。そして私たち一人ひとりの行動が社会をよりよく変えるきっかけにつながるのではないのでしょうか。

どんなことに悩んでいるんだろう【性の多様性】

行橋市では、この冊子「人権の明日をひらく」を年2回発行し、人権に関する情報をお知らせしています。

昨年は、LGBTQ について基礎的な情報や行政の取り組みについて特集いたしました。今回は、性の多様性を理解するため性的マイノリティの人の悩みや困りごとのほか、多様性を認めあう共生社会の実現に向けて出来ることなどについて掲載します。

LGBTQ をはじめとする性的マイノリティの方々の悩みや困りごとを知ること、今まで当然と考えられてきた認識や習慣を見直し、多様性について考えるきっかけとなることを願っています。

まずは知ることからはじめてみましょう。



—当事者の方の悩みや困りごとを知る—



「自分の周りには性的マイノリティの人はいないんじゃないかな。」

そうでしょうか!?

差別や偏見が怖くて、自分を隠し続けている人はいます。このような方は、具体的にどのような悩みや困りごとがあるのでしょうか。

日本では、人口の8%程度（およそ12人に1人）がLGBTQ等性的少数者（性的マイノリティ）であるとされています。（※出典：電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT 調査2018」）

家庭や地域での悩み

- 地域や近所の人々の理解を得られるか心配
- 安心できる自分の居場所が見つからない
- LGBTQ への偏見から住居を借りにくい

就職における悩み

- 性別の不一致による採用時の不安
- 履歴書などに、性別の記載や写真の添付を求められ就職活動が難しくなる
- 男女別の制服

職場での悩み

- 更衣室やトイレの「男・女」での使い方
 - 採用後の職場でのいじめなど
 - 性の多様性や LGBTQ に対する理解不足のため、カミングアウトできない
 - 昇進差別などのハラスメントを受けることがある
- うつや引きこもり、最終的には離職を選択するケースがある

多様性に対応する取組の一環として、「選べる制服」制を導入する学校が増えており、行橋市においても対応を進めています。

学校生活での悩み

- 「男らしくしなさい」「女らしくしなさい」と言われる
 - 男女別の空間（トイレ、更衣室・・・）や持ち物の色（制服、水着、髪型、ランドセル）などに違和感を覚える
 - 髪型、服装などを通して自分を表現できず、性自認を尊重してもらえない
 - 宿泊を伴う学校行事に参加し難い
 - 「彼氏(彼女)できた？」と聞かれ、返事に困る
 - LGBTQ であることを気づかれないように振る舞うことが、ストレス
 - 家庭や学校で孤立しやすい
- その結果、自分探し、仲間探しが困難になる

同性カップルが抱える困難

- 同性同士の結婚が認められず社会保障制度や福利厚生制度が利用できない
- 同性パートナーが所得税の配偶者控除を受けられない
- 生命保険で、同性パートナーを死亡生命保険の受取人にできない場合がある
- 死別した同性パートナーの財産を相続できない
- 法的に夫婦として認められないため、同性パートナーの命にかかわるケガや病気の治療の同意者になれなかったり、ICU に入っているパートナーに面会できないことがある

災害時に直面する困難

- 避難所で、生活場所を確保できない
- 同性パートナーの安否確認をしようとしても「家族」として扱われない
- 特にトランスジェンダー当事者が下着や生理用品などの男女別の物資を受け取りづらい
- 特にトランスジェンダー当事者が、トイレ・更衣室・入浴施設などを安心して利用できない
- 性ホルモンや抗 HIV 薬などの治療中の医薬品を受け取る際にプライバシーが確保されない

このように、性的マイノリティの人は、数えきれないほど、さまざまな困難と差別的な扱いに直面しています。

私たちが出来ることは？



- 性の多様性を知り、たとえすぐに理解できなくても、自分の価値観や固定観念を他者に押し付けず、まず否定しない。
- 学校や職場において、性自認や性的指向、ジェンダー表現(性表現)を理由に、蔑称べっしょうを用いる言葉を言ったり、いじめたり、笑いのネタにしない。
- 性自認や性的指向、ジェンダー表現を人事の評価にしない。
- 自分の周りに性的マイノリティの人がいるかもしれないと思って行動する。

などなど、私たち一人ひとりにできることはまだ多くあります。そして私たち一人ひとりの行動が社会をよりよく変えるきっかけにつながるのではないのでしょうか。



映画上映会

島崎藤村、不朽の名作「破戒」を

六〇年ぶりに映画化



この戒めを破り

明日を生きる――

間宮祥太郎
石井杏奈 矢本悠馬
高橋和也 小林綾子 七瀬公 ウィーティよしたか 大東駿介
竹中直人・本田博太郎・田中要次
石橋蓮司 眞島秀和

主演

間宮 祥太郎

相手役

石井 杏

2023年 7月 22日(土)

開演 13:30 / 開場 13:00

コスメイト行橋

ストーリー

瀬川丑松(間宮祥太郎)は、自分が被差別部落出身という事を隠して、地元を離れ、ある小学校の教員として奉職する。彼はその出自を隠し通すよう、亡くなった父からの強い戒めを受けていた。彼は生徒に慕われる良い教師だったが、出自を隠していることに悩み、また差別の現状を体験することで心を乱しつつも、下宿先の士族出身の女性・志保(石井杏奈)との恋に心を焦がしていた。出自の疑念の中、学校での立場も危ういものとなり、被差別部落出身の思想家・猪子蓮太郎に傾倒。「人間はみな等しく尊厳を持つものだ」という彼の言葉に強く感動。そして猪子は…丑松は…。

(上映時間: 119分)

■入場無料 [申込不要]

※定員を超えた場合は入場を制限します。(定員 429 席)

※託児無料(要申込)…7月14日(金) 締切

【お問合せ・託児申込先】 行橋市総務部 人権政策課

●TEL 0930(25)1111(内線 1332) ●FAX 0930(24)3441

●メール jinkenseisaku@city.yukuhashi.lg.jp

「7/22 映画会託児申込」とし、①お子様の名前(ふりがな) ②年齢

③保護者氏名 ④電話番号 をご記入の上お申し込みください。

人権パネル展 同時開催

7/14(金)～7/23(日) コスメイトロビー

主催：行橋市・行橋市教育委員会